

第1回 世田谷区教育振興基本計画策定委員会

教育総務課 令和4年12月23日

■ 次第

1. 第2次世田谷区教育ビジョンと調整計画について
2. (仮称) 世田谷区教育振興基本計画の計画期間及び考え方について
3. アドバイザリー会議の概要について
4. 子どもの意見聴取について (アンケート実施結果)
5. (仮称) 世田谷区教育振興基本計画の構成 (案) について (別紙 1 参照)
6. (仮称) 世田谷区教育振興基本計画の骨子の素材について
7. 意見交換

■ 第2次世田谷区教育ビジョン（平成26年策定）と調整計画

<教育目標>

すべての教育活動を通して人権教育を推進、
4つの育てたい子ども像、地域とともに子ども
を育てる教育の推進

<基本的な考え方>

一人一人の多様な個性・能力を伸ばし、
社会をたくましく生き抜く力を、
学校・家庭・地域が連携してはぐくむ

<基本方針>

- 地域とともに子どもを育てる教育の推進
- これからの社会を生き抜く力の育成
- 生涯を通じた学びの充実

<施策の柱>

施策の柱①

地域との連携・
協働による教育

施策の柱②

乳幼児期から小・中学校における質の高い教育
の推進（家庭教育支援・乳幼児教育）★

施策の柱③

乳幼児期から小・中学校における
質の高い教育の推進(学習内容)★

施策の柱④

乳幼児期から小・中学校における質の高い
教育の推進(学校経営・教員支援)★

施策の柱⑤

多様な個性がいかされる
教育の推進

施策の柱⑥

教育環境の整備・充実と
安全安心の確保

施策の柱⑦

生涯を通じて学びあう地域
コミュニティづくり

施策の柱⑧

教育デジタル・トランスフォー
メーション（DX）の推進★

施策の柱⑨

開かれた教育委員会の
推進

★は、調整計画で新たに設定した項目又は、第2期行動計画の項目より変更した項目

<調整計画>

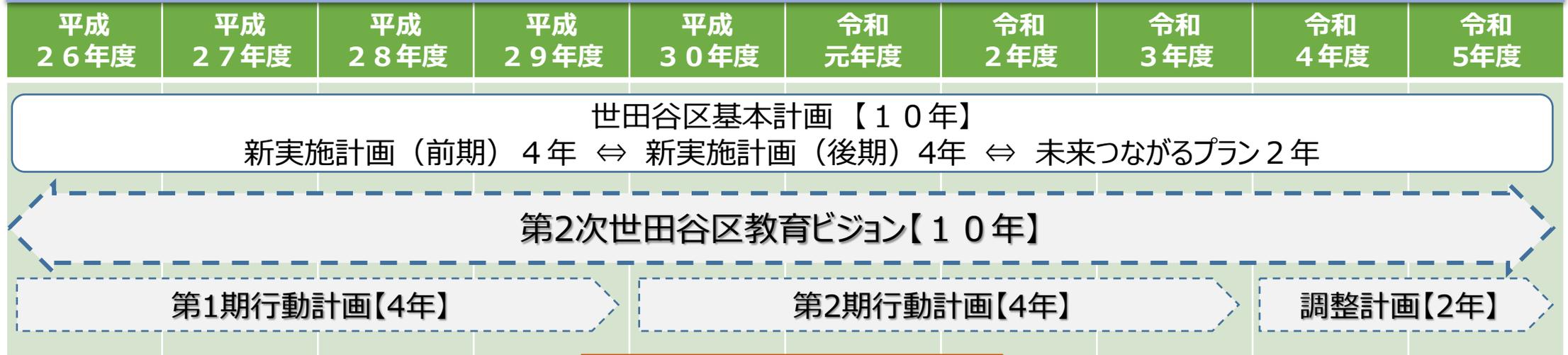
リーディング事業（9事業）



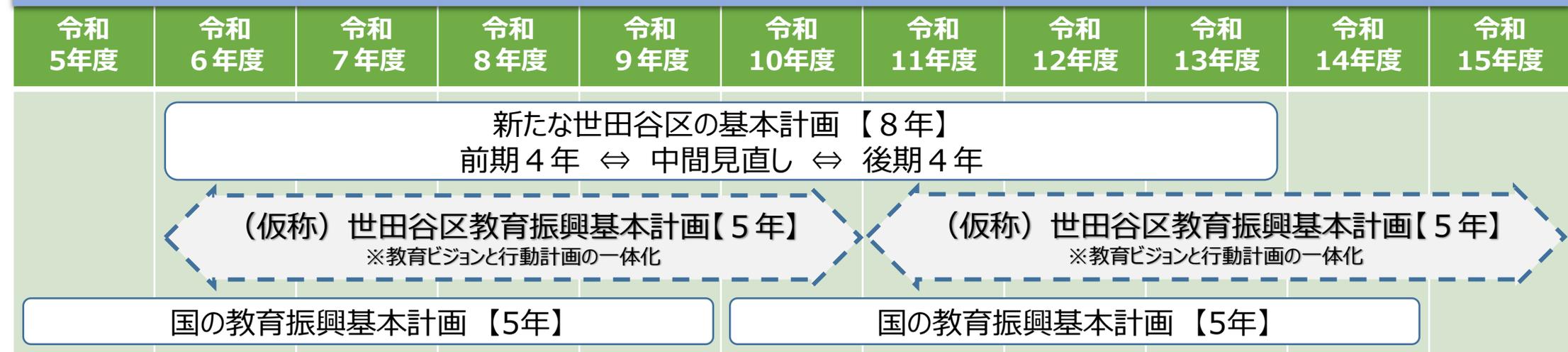
取組み項目（22個の取組み）・年次計画

■ (仮称) 世田谷区教育振興基本計画の計画期間及び考え方

■ これまでの計画期間



■ 新たな計画期間



■アドバイザー会議の概要

会議出席の学識経験者2名の発言要旨

(日本大学文理学部 末富芳 教授、兵庫県立大学環境人間学部 竹内 和雄 准教授)

第1回開催日 令和4年10月5日(水) 18時～19時30分 オンライン会議

会議概要 (末富教授の発言)

「こども基本法・教育基本法体制での教育政策の方向性について」

- ①こども基本法、子どもの権利をしっかり位置付けた新たな計画の立案
- ②指導モデルから支援モデルへの移行を踏まえて、子どもへの人権侵害が学校の中で絶対に起きないことを実現
- ③不登校の子どもたちへの学びの保障や費用の支援、学校外での社会教育も含めた豊かな学習活動の実現
- ④子どもの意見表明の尊重、参画の保障
- ⑤子どもの権利を何よりも教職員が学び、研修し、指導していく。管理職への研修を実施し、管理職の意識を変える

会議概要 (竹内准教授の発言)

「新しい時代への対応、子ども主体の取組みについて」

- ①GIGAスクール構想で子どもたちがネット環境を使う中での新しい時代に対応した指導・支援が必要
- ②子どもたち自身に考えさせるようなルールづくりが大切であり、新しい時代に合ったものにしていく必要がある
- ③子どもたち自身に考えさせて、子どもたち自身で検証させることが必要
- ④海外のいじめ対策では加害者に寄り添っている。日本では加害者を指導しても、次のいじめが生まれ、他の支援もなく学校の先生に丸投げしているのが現状

第2回開催日 令和4年11月16日(水) 18時～19時30分 オンライン会議

会議概要 (末富教授の発言)

- ①国の第4期教育振興基本計画の動きを踏まえる
- ②指標は固め過ぎずに、各章の下での節や項で意識して考えていく
- ③アンケートは、完全無記名で実施し、学校の楽しい要素と楽しくない要素を評価させるほうが率直な意見が出る
- ④自分の権利と自由を大切にするから、相手の権利と自由も大切にできる
- ⑤子どもの参画、アンケート実施手法など、パイロットケースを組み立てた上で、意見の反映の試みを実施できるように無理なく進めることが必要

会議概要 (竹内准教授の発言)

- ①子ども中心の理念・教育目標は、非常に重要
- ②国際比較のデータを指標とする方法もある
- ③意見聴取については、同じ子どもたちとやり取りしていくことが必要
- ④子どもたちが感じる息苦しさや楽しさが、今の学校とどのように違うのか、論点整理が必要
- ⑤教員へのファシリテーター研修を実施していくと、学校が変わっていき、教員は子どもの支援者になる

次期教育振興基本計画に必要なこれからの視点

- ・子どもの意見などを踏まえ、子どもを中心に据えた計画を推進していく
- ・子どもの最善の利益を守っていくことを前提に、5年間の重点事業などを設定し、各課が施策を推進していく

■ 子どもの意見聴取について

★ 令和4年度～5年度

第1回 令和4年9月

学校へのアンケート実施

- ① 小学校3校、中学校2校の24クラスで実施
- ② 質問を3つ設け、記述式で実施

第2回 令和4年10月

子どもの権利を考える「ティーンエイジ会議」の実施

- ① 12名の参加
- ② 3グループでのワークショップ
- ③ 家庭・学校・先生・校則などの「なんでやねん！」と語ることが発表された

第3回 令和5年5月ごろ

次期教育振興基本計画の教育目標・基本方針の骨格について

- ① 意見聴取を行う対象年齢、ワークショップ方式などの実施方法など調整中
- ② 対象者の選定方法など調整中

第4回 令和5年9月

区のおしらせ「せたがや」の特集号でパブリックコメントを実施

- ① 掲載内容を子どもでもわかりやすいように工夫する
- ② ルビを振り、子ども目線でわかりやすく紙面を作成する
- ③ すぐーるでも、周知する

議論・意見聴取

教育委員会

議会

議論・情報共有

策定

■ アンケート実施結果

実施概要など

1. 実施期間
令和4年9月7日（水）～9月21日（水）
2. 実施校
【小学校3校】用賀小学校、船橋小学校、下北沢小学校
【中学校2校】桜丘中学校、東深沢中学校
※1学年1クラス（小学校18クラス、中学校6クラス）に依頼
3. 実施手法
Microsoft Forms を使用
※QRコードを児童・生徒のiPadのカメラで読み込んで記述式で回答



実施目的

- ①第2次世田谷区教育ビジョンを引き継ぐ（仮称）世田谷区教育振興基本計画の策定にあたり、児童・生徒の意見を参考にするため。
- ②子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）、こども基本法（令和5年4月施行予定）、世田谷区子ども条例などの「子どもの意見の尊重」の主旨やこども家庭庁の考え方を踏まえて、アンケート実施を決定

アンケート内容

質問1

みんなが楽しいと思う学校は、どんな学校ですか。
また、どんな学校にしたいですか。
（ 共生社会（違いを認め合う）に関する視点 ）
（ 学校生活や学習内容、教育環境面に関する視点 ）

質問2

みんなが幸せになるためには、なにが必要だと思いますか。
（ ウェルビーイングに関する視点 ）



質問3

大人になったら、どんなことをしたいですか、してみたいですか。
（ 目標設定、挑む・挑戦する意欲に関する視点 ）



アウトカム

（仮称）世田谷区教育振興基本計画の骨子（教育目標・基本方針）の案を策定

■ アンケート実施結果

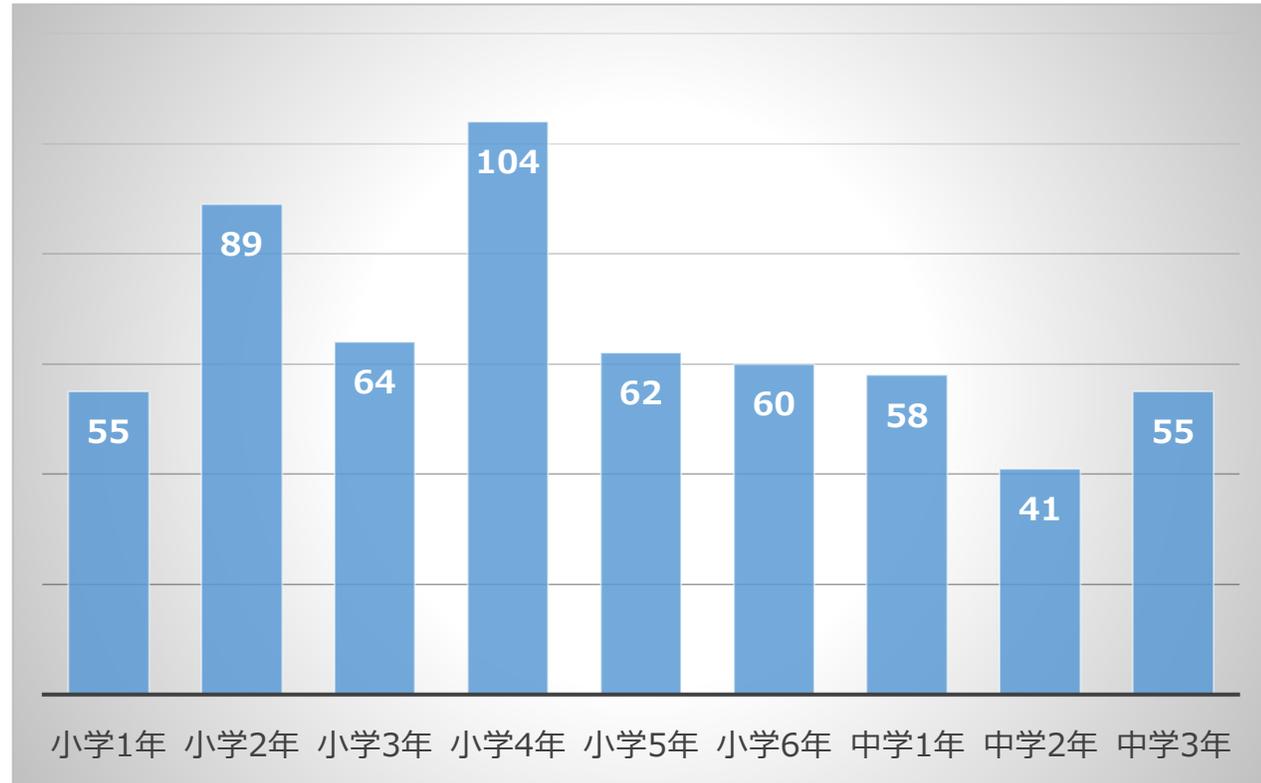
回答者数

回答者数 … 588名



内 訳

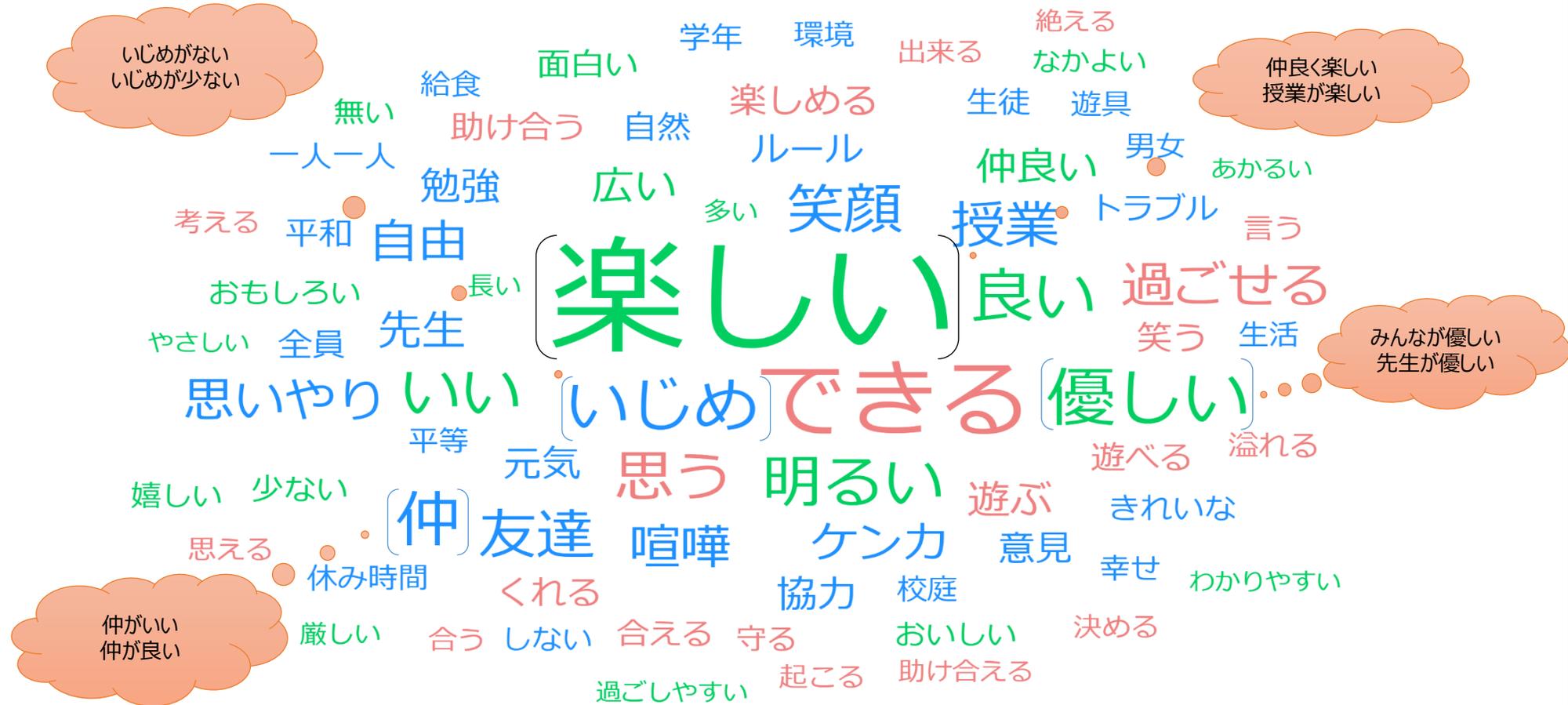
	実施数	回答者数	回答率
小学1年生	88名	55名	63%
小学2年生	89名	89名	100%
小学3年生	85名	64名	75%
小学4年生	106名	104名	98%
小学5年生	107名	62名	58%
小学6年生	104名	60名	58%
中学1年生	62名	58名	94%
中学2年生	58名	41名	71%
中学3年生	64名	55名	86%
合計	763名	588名	77%



子どもの意見（概要）については、次のページに記載

■ アンケート実施結果 (テキストマイニング)

質問 1 みんなが楽しいと思う学校は、どんな学校ですか。また、どんな学校にしたいですか。



■ 参考資料

出現頻度

問1 全体 (名詞)

名詞	出現頻度	
仲	45	～が良い ～がいい
いじめ	44	～がない、～が少ない ～のない
友達	36	～と仲良く、～がいっぱいいる、 ～思いな、優しい～
笑顔	35	～に満ちた みんなが～ ～が溢れる
授業	32	～が楽しい、～が面白い ～がない
喧嘩	27	～をしない ～がない
思いやり	25	～のある、～がある
自由	24	～な、～に、～時間
ケンカ	21	～がない、～のない
先生	19	～が優しい、～が怒らない
協力	17	～できる、～する
勉強	17	～できる

問1 全体 (動詞)

動詞	出現頻度	
できる	66	～ができる、協力～、楽しく～
思う	31	～と思う、～だと思ふ
過ごせる	22	笑顔で～、仲良く～ 楽しく～、心地よく～
遊ぶ	15	～時間、～時に
楽しめる	11	みんなが～、勉強を～
笑う	10	仲良く～

問1 全体 (形容詞)

形容詞	出現頻度	
楽しい	114	仲良く～、授業が～、明るく～
優しい	39	みんなが～、先生が～
良い	34	仲が～、仲の～
いい	33	仲が～、～がいい
明るい	32	～学校、元気で～
広い	14	校庭が～、体育館が～
仲良い	13	みんなが～、男女～

■ 参考資料

出現頻度

問2 全体 (名詞)

名詞	出現頻度	
思いやり	113	～のある心が必要 ～が必要 ～の心 ～を持つ
優しさ	69	みんなの～ 一人一人の～
友達	33	気楽に話せる～ 大切な～
けんか	30	～をしない ～をなくす ～がおきなかったら幸せになる
ルール	28	～を守る
笑顔	25	～が必要だと思う みんなが～でいること
協力	18	みんなの～ いろんな人の～
楽しさ	15	～だと思います ～が必要
お金	15	～持ち ～と時間
学習	13	～道具

問2 全体 (動詞)

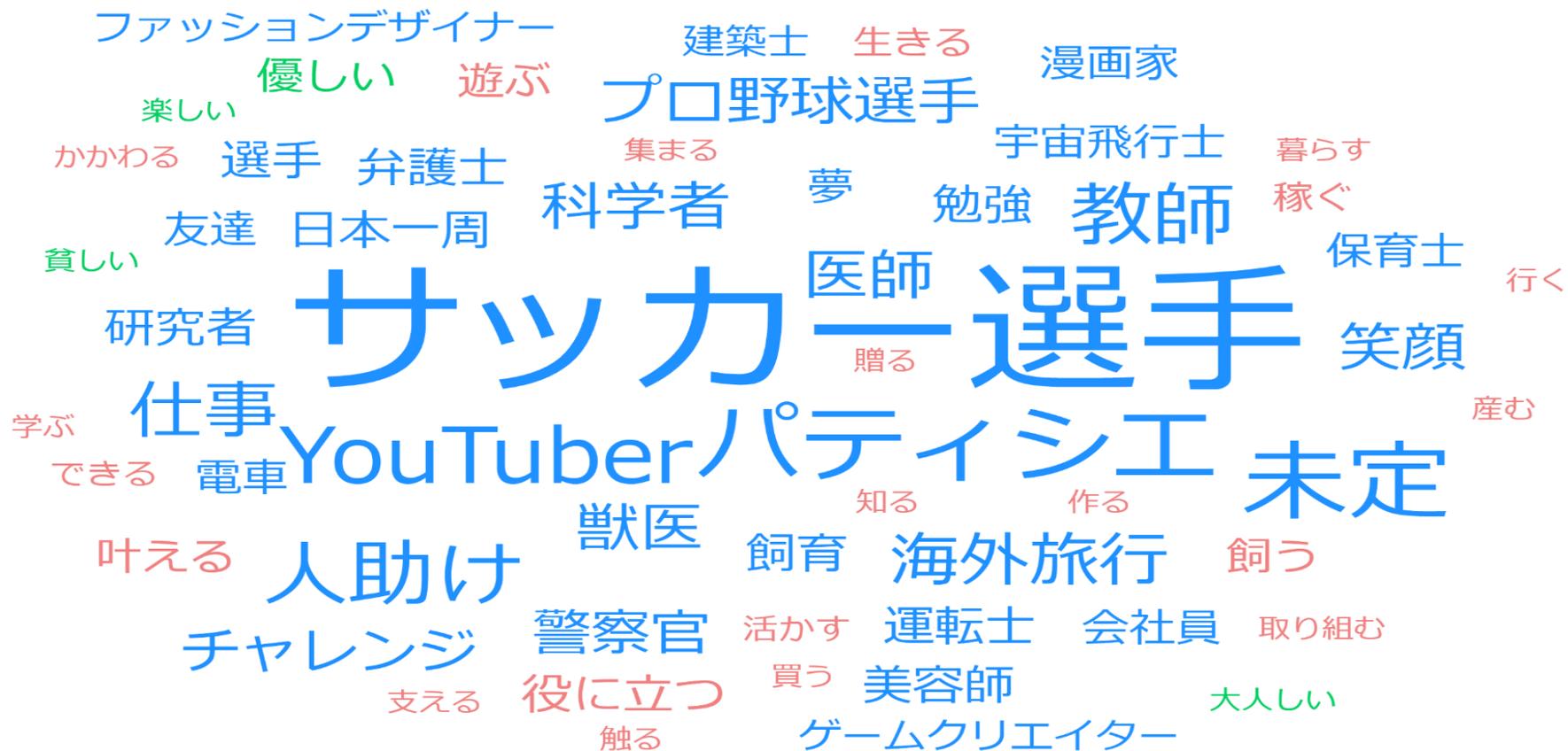
動詞	出現頻度	
守る	28	ルールを～
助け合う	17	協力し～
考える	12	相手の気持ちを～ 一人一人の気持ちを～ 全員が相手のことを～
できる	6	安心～、信頼～ 相談～
譲り合う	5	～気持ち
認める	5	相手を～
合う	4	話し～
聞く	4	人の意見を～ 先生の話を～
受け入れる	3	～心

問2 全体 (形容詞)

形容詞	出現頻度	
楽しい	10	みんなが～ ～生活
優しい	2	～人

■ アンケート実施結果 (テキストマイニング)

質問3 大人になったら、どんなことをしたいですか、してみたいですか。(小学生)



■ 参考資料

テキストマイニングとは

テキストマイニング（英: text mining）は、文字列を対象としたデータマイニングのこと。通常の文章からなるデータを単語や文節で区切り、それらの出現の頻度や共出現の相関、出現傾向、時系列などを解析することで有用な情報を取り出す、テキストデータの分析方法

名 詞：青色で表記

動 詞：赤色で表記

形容詞：緑色で表記

※出現頻度が多いほど字体が大きく太くなる

■ティーンエイジ会議実施概要

実施概要など

1. 実施日
令和4年10月23日（日）
2. 実施場所
池ノ上青少年交流センター
3. 参加人数
12名（9歳から17歳）
※小学生、中学生、中・高校生の3グループに分かれてワークショップを行った。
※ファシリテーターは、各グループ2名
4. 発表・講評
なんでやねん！カードを作成し、グループごとに発表
区長、教育長などから講評

※会議報告書については、区HPに掲載
※1月中旬にフォローアップの会を予定



■ (仮称) 世田谷区教育振興基本計画の骨子の素材

教育目標について

子どもが見てもわかりやすく、学ぶ人の視点で教育目標を定める
また、その教育目標をもとに、子どもたちを育む地域社会の実現を目指す

⇒ 予測困難な未来を自ら切り拓くための礎となる指針を盛り込む

- ① 探究的な学び、個別最適な学びの視点
- ② 挑む・挑戦する意欲、気概の視点
- ③ 違いを認め合う（共生社会）の視点
【誰一人取り残さない教育の推進】
【多様性、包摂性】
(ダイバーシティ&インクルージョン = 多様性と社会的包摂)
- ④ コミュニケーション能力向上の視点
- ⑤ グローバルに活躍する人材の育成の視点
- ⑥ 幸せ（個人と社会全体のウェルビーイングWell-being）の視点

基本方針（取組みの視点） 3～5つ程度

実施計画（行動計画）について

「取組み項目（取組み内容）」を定め、「実施計画・行動計画（重点項目事業を含めた個別の取組み・施策）」を定める

重点項目事業とは、5年間で特に重点を置いて取り組んでいく事業

基本方針（取組みの視点）について

教育目標を実現させるための指針として、基本方針（取組みの視点）を3つから5つ程度定めるための教育をめぐる主な現状

- ① 家庭・地域との学びの連携【家庭教育への支援】
- ② キャリア・未来デザイン教育の推進
【せたがや探究的な学びの実現、非認知的能力の育成】
- ③ 未知の世界、予測困難な社会で生きていく資質・能力
【主体性・自主性・自立性の向上】【選択力の習慣化と向上】
- ④ 社会の担い手としての自覚、役割を果たす
【多様性が尊重される社会の実現】【自己肯定感・自己有用感の向上】
- ⑤ 子ども中心の教育の推進
【人権教育の推進、多様性や包摂性の理念の浸透、いじめ（重大な人権侵害）の撲滅】
【育つ環境や障害の有無に関わらず、等しく公平な質の高い教育環境の確保】
【インクルーシブ教育の実現、ジェンダーバイアス（偏り、思い込み）の解消】
- ⑥ 教育DXの更なる推進
【ICTを活用した学びの推進】【ICT環境整備の充実】【教職員の支援】
- ⑦ 個々の能力、興味関心、将来の進路等の多様化【選択肢の多様化、個性や多様性の尊重】
- ⑧ 地域で支える教育活動の推進
【大学、企業、町会、自治会、商店街、NPO法人等との連携】
- ⑨ 地域人材による部活動の活性化【休日の部活動の地域移行】
- ⑩ 生涯学習・社会教育の充実
【地域と学校の連携・協働の推進】【リカレント教育の推進】
【年齢を問わず学び続け、向上心や地域社会への貢献に意欲を持つ】
- ⑪ 多様な学びの場の拡充
【不登校特例校、ほっとスクールなどによる自己実現】
【特異な才能と学習困難とを併せ持つ児童・生徒に対する教育】
- ⑫ 文化の多様性を尊重し、国際社会の発展に寄与
【教科日本語の充実】【英語体験活動、海外交流の実施】

【検討部会（作業部会）】

- ・ 3グループで取組み内容などの検討
- ・ 課題整理など

報告

策定委員会、教育委員会、区議会、総合教育会議、
庁内関係各課